

提出された意見等及びそれに対する市の考え方

- 1 案件名 えびの市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）
- 2 募集期間 平成27年12月16日～平成28年1月20日
- 3 意見等提出件数 7件（1人）
- 4 意見等の内容と市の考え方

意見等の内容（要旨）	市の考え方
<p>①まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）は、簡潔で分かりやすい言葉で整理されていると共に、えびの市の特性を踏まえた目指すべき方向が示されており良い戦略が出来ていると思います。市のスタッフの方たちのこれまでのご努力に対し敬意を表します。</p> <p>一方、今回の戦略には大きな欠陥があるように思われます。</p> <p>戦略を支える多くの事業の具体内容が明記されておらず、事業名を見た人がそれぞれの思惑の中で内容を推測するしかなく、場合によっては過度な期待が膨らむものの、現実には期待したほどの効果は上がり数年先に失望だけが残ることになりかねません。今回の戦略は4つの基本目標があり、基本目標の中に4～6つの施策があり、合わせて20の施策があります。また、施策の中に複数の事業が掲げられています。これらの、20もの施策や100以上の事業の中で、どの施策（又は事業）に力を入れるのが明確になっていません。つまり、どの事業に重点的に予算を配分するかを判断するための考え方が記されておりません。限られた予算で運営する場合、多くの事業に平均的な配分をしては、旧態依然の予算運営と同じようになってしまいかねません。つまり重要な事業に予算を重点的に配分をしないと、人口減少を抑制する効果は期待できないように思います。</p> <p>1～2月に予定されていると思いますが、総合開発審議会に十分な時間を取って、どの事業に力を入れて取り組むのか、審議を積み重ねていただくことをお願いします。</p> <p>今回の戦略を実効あるものとするために、関係者の皆様の一層のご努力をお願いします。</p>	<p>総合戦略案に示した事業の具体内容については、今後、予算等も連動したアクションプランでお示ししたいと考えています。</p> <p>また、今回示した施策や事業は、どれも、今後えびの市が人口減少対策や定住促進対策を進める上で重要で必要不可欠なものとして考えており、予算的な大小はあるものの力の強弱の差はほとんどないと考えています。</p> <p>ただし、ご指摘のように限られた予算で運営する上では緊急度や優先度を意識した施策展開を図る必要があるため、年度ごとの予算配分上の差は生じます。</p>
<p>②えびのの良質な農作物の外国への輸出など、農業ビジネスに市が取り組んではどうか。</p> <p>施政方針1-1の農林畜産業の維持・発展に力を入れることには賛成です。</p> <p>えびの市として農畜産業の発展に力を入れることには賛成ですが、農家の経費を肩代わりするような補助金等の支給には反対です。TPPにより農畜産業の新たな競争が始まる時代にふさわしい取組みを期待します。えびの市には、お米を筆頭に美味しく安全性の高い作物が多くあると思います。これらの良産品を国内はもとより外国へ輸出することを模索すべきだと思います。宮崎県の上海事務所と連携して中国の富裕層へ、えびの米を売り込むなどの取組みを、場合によってはえびの市が主体となっていくことも考えるべきだと思います。この事業に市が取り組むことは民業圧迫ではありません。民間の業者ではリスクが高くて手を出しづらいことに行政が乗り出すことこそ、真の支援だと考えます。</p> <p>また、えびの市では高齢化によって農業や畜産から撤退する人が多いようですが、そのような人達が持たれている資源（土地・知識など）を集約したり共同で行うことなどを、市が主体となっていくこともあって良いと思います。大河平地区のように、地域ごとに共同して事業を行うような意識改革を推進する取組みも必要だと思います。</p>	<p>本市の基幹産業である農林畜産業の維持・発展は重要な課題であります。</p> <p>TPPにより世界的な競争力を持つ足腰の強い農業を目指す国の考え方もありますが、本市のような中山間地域における農林畜産業のあり方も十分配慮していく必要があります。その点において必要最低限の支援は行い、農家所得の向上に繋げ、本市基幹産業の振興を図る必要があると考えています。</p> <p>その中で、本市の安全でおいしい農畜産物を海外へ売り込むことは今後必要な施策展開の一つだと考えており、ご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>また、農業機械の共同利用や農作業の共同化、法人化や農地の集積等は、これまでも進めてきており、今後も推進していきます。</p>
<p>③えびの市内での雇用創出に市が取り組むべきだと思う。</p> <p>施政方針1-4の就職説明会支援には疑問を感じます。対象者が20人程度と限られており、説明会を行う必要性は少ないと考えられます。説明会の開催よりも、えびの市内で雇用を作り出すことが肝要です。えびの市にある資源や特性を生かした雇用創出について取り組むべきだと思います。（多額の借金を抱えてまで工業団地を造成し企業誘致を図ることは論外です。）</p> <p>1項で記載した、農畜産物の輸出に取り組む会社を設立することも雇用創出の一つです。また、私が観光客の目線でえびの市を見ると、えびの市の旅館に泊まったときにはえびの市ならではの料理を食べたいと思います。えびの高原には鹿が多いので鹿料理も良いでしょうし、私の家の近くには雉（きじ）を育てている方がいらっしゃいますので、きじ料理をえび</p>	<p>総合戦略案に示した就職説明会支援については、昨年度行った説明会の参加者数が約20人ということであり、今後は、これ以上の参加が得られるような取組を進めてまいります。</p> <p>就職説明会の開催を支援することは、市内企業と市内就職者とのマッチングを進め、市内の地場産業振興や市内就業・定住促進につながると考えています。</p> <p>また、ご指摘のとおり市内の雇用創出は重要な課題であるため、そのための企業誘致、創業支援、市内企業のサポート等を積</p>

<p>の市の名物として育てるのも良いかもしれません。鹿や雉、猪などのジビエ料理をえびの市のグルメ料理として定着できれば、狩猟、食肉加工、調理などの業種での雇用促進につながります。また、関連して鹿革加工品の製造、販売等も期待でき、鹿等による農作物被害の軽減にもつながります。</p> <p>このように、えびの市内の資源を活用しての更なる雇用創出の余地がまだまだあるように思います。</p> <p>民間の業者にとってはリスクの高いことに、市が自ら乗り出して雇用創出に取り組むことを考えていただきたいと思います。</p>	<p>極的に進めていきたいと思います。</p> <p>工業団地の造成につきましては、多額の借金を抱えることのない方法を検討し、市民の皆様の理解を得ながら推進していきたいと考えています。</p> <p>なお、ご提案のジビエ料理を活用した地域振興については、有効な施策になり得ると考えておりますが、販路や需用等のニーズを見極めながら、その活用方法や施策展開を検討しているところです。今後、その見通しがたった段階で、有害鳥獣被害対策とその活用を含めて、総合戦略の見直し、施策展開を図ってまいりたいと考えます。</p> <p>ご意見にあるように、本市にはまだまだ恵まれた地域資源が数多くありますので、それらを生かした産業振興、雇用創出を検討してまいります。</p>
<p>④島津義弘公の大河ドラマが決まる前に観光地の整備を行うことが必要。</p> <p>施政方針2-1にある、観光資源磨き上げ・整備事業にはしっかりと取り組んでいただきたい。</p> <p>えびの市には、飯野城や加久藤城、白鳥神社、島内古墳群、定善寺跡地などの場所に加え、田の神さあや廃仏毀釈など歴史や文化に関連する観光資源が多くありますが、観光地として整備されていません。</p> <p>つまり、整備すれば観光地として人を呼べるのに、整備していないから観光客も来ないという状況にあります。観光資源を整備し観光客を呼び込むことで、観光産業を盛り上げ、雇用を創出することにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>特に、島津義弘公を題材とした大河ドラマが現実味を帯びてきているようですが、この大河ドラマが実現する前に、えびの市の観光地をしっかりと整備することが必要です。義弘公の大河ドラマは、えびの市を観光地としてPRする絶好のチャンスです。一方、観光地としての整備は現状でははなはだ不十分で、このままでは義弘公の大河ドラマが放映されても、えびの市に来られる観光客は他の市町村と比べて少数になるかもしれませんし、一過性のブームに終わってしまいかねないとの危機感を感じています。そういう意味では、観光資源の整備がある程度完了するまでは、義弘公の大河ドラマの実現が遅れることを望みたいというジレンマを感じています。</p>	<p>ご意見のあったとおり、本市の豊富な地域資源・観光資源の磨き上げ、観光地・観光施設としての整備は、重要な施策であるため、引き続きしっかりと進めてまいります。</p> <p>また、本市を訪れる方々に、えびの市を好きになっていただき、また来たいと思っていただけるような、おもてなしの心の醸成を図るような施策も進めていきたいと考えております。</p>
<p>⑤公共の交通機関の充実が必要で、市は積極的に宮崎交通等に働きかけるべき。</p> <p>(1) 観光の振興の視点から</p> <p>社会全体での高齢化が進む一方で、時間的・経済的に余裕があるのも高齢者であることから、えびのに来ていただく観光客のターゲットから高齢者を除外すべきではなく、高齢者が来やすい観光地を目指す必要があると思います。えびの市は、高速道路の利便性が良いものの、自分で車の運転をするのが億劫になりがちな高齢者にとっては、公共の交通機関の利便性が良いとはいえない状況にあります。</p> <p>それは、交通機関の運行便数が少ないことが問題です。福岡～えびの間の高速バスは1時間半～2時間に1本しか運行されていません。一方、福岡～人吉間や福岡～小林間は30分から1時間毎に運行されています。これでは、福岡から温泉に入りに来るお客さまの多くは、交通の利便性の高い人吉を選ぶことになりかねません。</p> <p>また、えびの市の代表的な観光地であるえびの高原に行くための、公共の交通機関も必要です。</p> <p>えびの高原荘と道の駅えびの間のシャトルバスを1時間に1本程度の定期運行を、えびの高原荘の業務の一環として行うなど、当面は赤字だとしても観光客を誘致していくためには必要なことだと思います。</p> <p>これらの、観光客のための交通機関整備は施策4-1の住みよいまちづくりにつながるものなので、総合的に議論することが必要です。</p> <p>(2) 生活環境の整備の視点から</p> <p>施政方針4-1の事業として、公共交通機関の充実・整備を追加する必要があります。</p>	<p>観光振興の観点や市民の利便性向上のため、これまでも高速バスのえびのIC停車便の増便を事業者に要望していますが、今後も、関係機関等と連携をとりながら要望してまいります。</p> <p>また、市内観光地への公共交通運行についても、シーズン中の臨時便運行等を含め、要望してまいります。</p> <p>生活環境面からの公共交通網の整備（運行時間等を含む）については、引き続き事業者への要望と補助を行い、現存路線の維持と利便性向上を求めていきます。</p> <p>また、交通空白地について市の主要施設や幹線までの移動を補完するタクシー料金助成事業を平成27年度から開始しており、今後も利用者のニーズを検証しながら進めてまいります。</p>

<p>住みよいまちづくりのためには、車を運転しない人でもえびの市内及び近隣市町村に往来できるよう、公共の交通機関を充実整備する必要があります。例えば、えびの文化センターでの催し物を路線バスを使って見に行こうと思っても、運行便数が少ないため、催し物が始まる1時間半以上前に着く便を利用し、催し物が終了後に1時間半以上バスを待つようではなかなか行く気になれないと思います。</p> <p>そこで、えびの市内の主要場所を30分程度毎に運行するようなバス路線の充実が必要です。交通空白地域の方々にとっても路線バスの停留所までタクシーで来て、後はバスに乗れば経費節減になります。えびの市内のバス運行は場合によっては、市が運営しても良いと思います。宮崎交通が市に協力しないのであれば、市営バスを運行することも検討して良いと思います。</p> <p>また、えびの～小林間の路線バスの運行も1本ごとの時間間隔が長く、バスに乗り遅れると1時間半以上待つことになり、使いつらい状況にあります。最終バスの時間も早く、居酒屋などで飲食をして帰ろうとしてもバスがありません。せめて最終バスを20時半以降とするなどの利便性を高めることが望まれます。バスを利用する人が少ないのは、バス料金が安いからというよりも利便性が低いからだと思われ、利便性が低いから利用客が少ない、利用客が少ないから便数が減るといった悪循環を解消することが必要です。これは、民間のバス会社に対して、えびの市と小林市とが共同で折衝し、必要に応じて補助金を出すなどして、高齢者が公共の交通機関を利用して往来できる環境を作ることが、高齢者の生きがい創出にもつながることだと思います。</p>	
<p>⑥保育料無料化ではなく1～2割程度の負担は残すべき。</p> <p>施政方針3-2の保育料の無料化は、子育て支援の観点からは望ましいのですが、それでは事業者の保育料低減努力が働きにくくなるように危惧します。税金から全額支払われることになれば、親の負担が無くなることで、保育料に対する親の関心が低くなり、結果として事業者の保育料低減努力が働きづらくなるのが懸念されます。よって、全無料化ではなく負担軽減措置とすべきと考えます。</p> <p>具体的には、子供が1人の場合は保育料を1/2～3/4軽減、2人目以降は8～9割軽減(※)というように、親にも若干の費用負担をしてもらうことが必要だと思います。</p> <p>(※親の費用負担額は、子供が1人の場合は保育料の1/2～1/4、2人目以降は1～2割程度)</p>	<p>国においても第3子以降の保育料無料化を進める方針であり、多子世帯の保育料低減は、安心して子育てできる環境づくりのために必要だと考えます。</p> <p>事業者へは、少子化に対応した質の高い幼児期の教育・保育の提供や待機児童解消のための取組を求めてまいります。</p>
<p>⑦人口ビジョンについて、資料のp37記載の4. 人口の将来展望の「分析結果まとめ」として、「仮に合計特殊出生率を2.07とし、39歳以下移動抑制を30%とすることが出来れば、1万人を超える人口を維持することも可能となる見込みです。」と書かれているにもかかわらず、p38の「図4 人口目標の推移」のグラフの傾きが右肩下がりで継続したままとなっています。図4では2060年で10,280人と予想され1万人以上を維持できているものの、右肩下がりが継続したままのグラフであるため、まもなく1万人を下回ることを暗示したグラフとなっています。これではp37に記載の「1万人を超える人口を維持することも可能」と矛盾しているように思います。</p> <p>将来のえびの市の人口を1万人以上で維持出来ると考えるなら、下げ止まることが読み取れるシミュレーションを検討し、1万人以上で下げ止まるグラフを提示すべきでしょうし、図4をそのまま掲載するのであれば、1万人を割り込む恐れについての、「えびの市としての見解なり考え方」を記すことが望まれると思います。</p> <p>なお、p38「人口目標の設定」として、「39歳以下の人口流出抑制割合を30%抑制、合計特殊出生率2.07を実現することで、2060年に10,280人を達成することとします。」と書かれています。「達成」という言葉は、目標などを成し遂げるという意味ですが、10,280人まで人口が減ることは目標では無いので、「達成」という言葉は不適切だと思います。達成すべきは、えびの市の人口を将来にわたって1万人以上を維持し、増加に転じさせることだと思います。</p> <p>えびの市の人口が下げ止まり増加に転じる施策の推進に向け関係者の皆様のご努力をお願いします。</p>	<p>(人口ビジョンについては、今回の総合戦略案へのパブリックコメントの参考資料としてお示ししたのですが、ご意見をいただきましたので、説明をさせていただきます。)</p> <p>人口ビジョンに記載したご指摘の箇所については、2060年時点で人口1万人を維持していることを述べており、グラフとも矛盾しません。グラフでは、2060年以降を示しておりませんが、その後もある時点までは減少傾向が続くものと考えております。ただし、このビジョンで示した展望では、人口の年齢構造上、適正化が図られることを示しており、以後の持続的な地域社会の維持が可能になるものと考えます。</p> <p>人口目標の表現についても、何も策を講じなければ、2060年の人口が約9,400人や約7,700人という推計がある中で、総合戦略の着実な推進によって1万人超を維持することを「達成」と表現したのですが、ご意見にあるような捉え方をされないように表現を改めることとします。</p>